



世界禁煙デー

やめるきっかけに

米子で啓発活動 たばこの害アピール

世界保健機関(WHO)が提唱する「世界禁煙デー」の31日、啓発イベントがJR米子駅前のイオン米子駅前

スタッフ(右)の説明を受けながら機器を使って肺年齢を測定する来場者。31日、米子市末広町のイオン米子駅前店

店であった。医療関係者らがたばこの害をアピールし、禁煙の支援策などを紹介した。医師や歯科医師、薬剤師らでつくる実行委員会が企画。禁煙相談に応じ、来場者に禁煙補助薬のニコチンパッチを配った。ニコチン依存度をテストしたり、肺年齢や呼気中の

一酸化炭素濃度を測定するコーナーも設けられ、買い物客らが受動喫煙防止の大切さについて理解を深めた。実行委員長の長谷川純一鳥取大医学部教授は「たばこはあらゆる病気の危険因子。思い立ったら、まずは気軽に禁煙外来へ」と呼び掛け、参加した米子市

両三柳の小倉恒雄さん 掛けてしまおうので、今(75)は「周囲に迷惑も一日からやめよう」と決意

医師などから禁煙指導を受ける参加者=31日、倉吉市山根のパープルタウン



医師に禁煙相談 イベント

「世界禁煙デー」に合わせ、鳥取県中部医師会などは31日、倉吉市山根のパープルタウンで、禁煙支援イベントを実施した。参加した買い物客らは、禁煙相談や肺年齢の測定などを通じて、たばこ健康について理解を深めた。子どものころからの禁煙教育と女性の喫煙、受動喫煙の防止を

重点に毎年取り組んでいる。県子育て応援課の調べによると、2013年の妊婦喫煙率は県平均が3・5%なのに対し、県中部地区は5・8%と高い。会場では、呼気中の一酸化炭素濃度や肺年齢を測定。医師や歯科医師、薬剤師による相談や禁煙指導があり、ニコチンパッチを処方される人もいた。来場時には「禁煙宣言書」が手渡された。鳥取看護

大の「まぢの」も開設され、肌年齢、体脂肪測定した。